

新入職者の急変対応勉強会

いざという時、どうしますか

達生堂グループの新入職員が学ぶ「急変対応勉強会」が7月10日、城西病院で開かれました。この勉強会は、職場やふだんの生活の中で心肺停止などの急変者が出た場合、どう対応すればいいのを知ることが目的。JRRT（城西グループ急変対応チーム）が主催して、グループ内で急変者が出た場合、どのような対応をすればいいかを学ぶとともに、心肺蘇生やAEDの使い方などを実際に学びました。

勉強会は、JRRTが急変者を発見した時の対応を寸劇で紹介。新人ナースが急変者を発見し、先輩ナースに連絡、応援を呼ぶとともに除細動器や救急カートを運び込み、医師に連絡して救命処置を施すという一連の流れを演じました。その後、村田智史医師がスライドを使い、CPA（心肺停止）の急変者を発見した時、反応の確認、通報、心肺蘇生（胸骨圧迫やAEDによる処置）など救命の対応、城西病院で定められている緊急コールなどについて分かりやすく解説しました。

引き続き、実技ではCPAの人に必要の胸骨圧迫（心肺蘇生）とAEDの使い方を実習しました。4、5人が1組になり、結城消防署の救命救急士やJRRTのメンバーの指導でダミーを使い、胸骨圧迫のやり方やAEDの安全な取り扱い方法に真剣に取り組んでいました。

この日の参加者は22人で、タイやインドネシアの外国人介護技能実習生も参加し、一生懸命取り組んで



今回お世話になった結城消防署の皆さん



いました。

村田医師は「1人では急変者に対応できない。CPAの場合、最低4人が必要だ。グループ外でもこうした急変者に遭遇した場合、この勉強会を思い出して対応してほしい」と話していました。勉強会は、7月24日に第2回が行われます。

2024年7月11日

